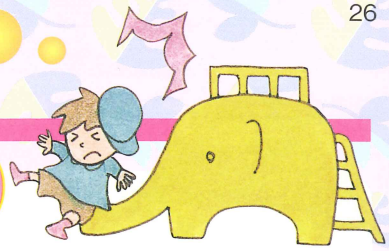
12 不活化ワクチン

# HPV（ヒトパピローマウイルス）



## HPV（ヒトパピローマウイルス）ってなあに？

HPV（ヒトパピローマウイルス）は女性の子宮頸がん発生の原因となるウイルスです。HPVは性交渉によって誰でも感染する機会のある一般的なウイルスで、8割くらいの女性が一生のうちに一度は感染します。子宮頸がんを発症するのは感染した女性の1%未満だと考えられています。ワクチンに入っているHPV16型と18型は最も一般的な発がん性タイプであり、世界の子宮頸がんの約70%にこのタイプが関連しています。そして、20～30歳代での発症が問題となっており、日本では年間約15,000人が発症、約3,500人が亡くなっています。

「子宮頸がんを発症させるのはHPV感染である」と確定されたことによって、予防を目的としたワクチンの開発が進みました。2009年12月より導入されたワクチンは、このHPV16型と18型の感染を予防するワクチンです。発症は20～30歳代が多いのですが、ワクチンは性交渉開始前に接種しておくことが大切です。接種対象年齢については日本産科婦人科学会、日本小児科学会、日本婦人科腫瘍学会で話し合い、初回接種は11～14歳に開始することを推奨としています。なお、世界においてはすでに100カ国以上で使用されています。

## 接種を受ける時期と間隔は？

**●対象者年齢**

10歳以上の女性
（日本では年齢の上限は決められていません。）

**●回数**

3回の筋肉内注射
※初回接種の後、1カ月後と6カ月後にそれぞれ1回

## HPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチンの副反応は？

●注射部位の疼痛、発赤および腫脹などの局所反応と、軽度の発熱、倦怠感などの全身性の反応であり、いずれも一過性で数日以内に軽快します。

●海外での接種約7,800例において、局所反応としては疼痛（90.3%）、発赤（46.6%）、腫脹（43.0%）、全身反応としては疲労感（35.9%）、頭痛（29.7%）、筋痛（35.0%）などが報告されています。

●接種日メモ

HPV接種 初回
月　日

初回接種1カ月後

HPV接種 2回目
月　日

初回接種6カ月後

HPV接種 3回目
月　日